



神奈川東ロータリークラブ

KANAGAWA EAST ROTARY CLUB

DISTRICT 2590/CHARTERED MAY 29-1976/WEEKLY BULLETIN

2014-2015年度 R I 会長 ゲイリー C.K. ホアン



第2590地区 ガバナー

大野 清一

- 会 長 山田 正憲
- 会長エレクト 江森 国一
- 副 会 長 天野 公史
- 副 会 長 鴻 義久
- 幹 事 植田 清司
- 副 幹 事 朝日 達夫
- 会 計 渡 邊 淳
- 副 会 計 白井 康夫
- S A A 小山市 康
- 副 S A A 長井 章
- 副 S A A 青柳 紀
- クラブ会報 竹山 洋



写真提供 小池将夫会員

事務局 ホテルキャメロットジャパン内 〒220-0004 横浜市西区北幸 1-11-3
TEL : 045-314-3900 FAX : 045-314-3555

例会日 毎週金曜日 0 : 30 ~ 1 : 30 PM (第5金曜日 6 : 00 PM)

例会場 ホテルキャメロットジャパン

創立記念日 昭和 51 年 5 月 29 日

URL <http://www.kanagawahigashi.com/>

E-mail kerc@beach.ocn.ne.jp

2014-2015年度 第42週報 No. 1883 2015年(平成27年) 5月15日 第1883回例会記録 5月29日発行

司 会 朝日 達夫 副幹事

誕生日祝 須永 久一 会員 (5月11日)
赤堀 和人 会員 (5月30日)

点 鐘 山田 正憲 会長

斉 唱 「我等の生業」

四つのテスト 角田 伯雄 職業奉仕委員長
(第1例会のみ)



ゲスト紹介 茅原 郁生 様 (ゲストスピーカー)

本日〈5月29日〉のプログラム

夜間例会

ビジター紹介 神奈川RC 金野 克佐 様
横浜南RC 川崎 智晴 様
横浜南RC 水谷 透 様

<< 本日の BGM >>

「ハンガリー舞曲第5番 ト短調 (チャイコフスキー)、
メロディ<なつかしい土地の思い出より>(J.S. バッハ) 外」

結婚記念日祝

青柳 紀 会員 (5月22日)
吉田 隆男 会員 (5月31日)



会長報告

山田 正憲 会長

・RYLA委員会より、2014-15年度RYLA参加者感想文集が来ておりますので回覧します。

幹事報告

植田 清司 幹事

- ・本日、例会終了後に5月度定例理事会を開催致します。
- ・次週22日(金)は24日(日)春の家族会に移動例会となりますので通常例会はございません。また、次々週29日は夜間例会となりますので、こちらもお間違えないようお願いいたします。
- ・本日、次年度の年間プログラムと組織表をボックスへ配布しておりますのでご確認下さい。

出席報告

西山 潔 出席委員長

会員総数	54名	(33+21)名	
出席会員数	41名	(30+11)名	
出席率	93.18%		
ゲスト	1名	ビジター	3名
前回補正後	92.16%	前々回補正後	87.23%

スマイルボックス

青柳 紀 副SAA

横浜南RC 川崎智晴様 山田会長、ゴールが見えてきましたね。来年2月、RYLA、一緒に頑張りましょう。
横浜南RC 水谷 透様 本日はお世話になります。よろしくお願致します。

神奈川RC 金野克佐様 本日もお世話になります。

須永久一君 ①本日は、お誕生日祝い頂き、ありがとうございます。②先日、三井の森ご参加の皆様、お疲れ様でした。

赤堀和人君 誕生日祝い、ありがとうございます。

西山 潔君 結婚記念日のお花、ありがとうございました。

山田正憲君 ①茅原様、本日のお話、楽しみにしています。②水曜日に本年度RYLA委員会、木曜日に次年度青少年奉仕委員会に出席して来ました。

月山 勇君 先日の蓼科会では、青柳さんには大変お世話になりました。また、参加の皆様、お疲れ様でした。

山本 登君 蓼科遠征にご参加の皆様、お疲れ様でした。

植田清司君 茅原郁生様、本日はようこそいらっしゃいました。卓話、楽しみにしています。

加藤仁昭君 ①蓼科参加の皆様、お疲れ様でした。②茅原様、卓話、楽しみにしております。

茂木知子さん ~人生は雑巾がけ~友添さんがRYLAの大会で、総持寺で雑巾がけをして体が痛いと言っていました。そばにいらした山本住職がおごそかに、『雑巾がけは心の洗濯です』とおっしゃいました。友添さん、人生の続く限り雑巾がけが必要です。

金森欣一君 茅原様、本日はようこそお越し下さいました。お話を楽しみにしています。

青柳 紀君 ①結婚祝い、ありがとうございました。②蓼科会ご参加の皆様、お疲れ様でした。須永さん、山本先生、優しくして頂いてありがとう!

5月15日	14件	43,500円
本年度累計		2,035,640円

卓話

「中国で進められている反汚職腐敗闘争は成功するか？」

・・・『蠅も、虎も同時に叩く』の実情」

拓殖大学 名誉教授 茅原 郁生 様
(紹介者 金森 欣一 会員)



1. 習近平の権力掌握

- ①2014秋の共産党第4回全体会議における「統治は法治」決議と権力集中
- ②同北京APECでの新外交路線・・・周辺国重視：「一帯一路」の2つのシルクロード戦略
- ③共産党独裁体制のピラミッド・・・幹部の権限絶大

(下記図表-1)

2. 中国社会の特性と共産党独裁体制の汚職腐敗体質

- ①不安定な王朝興亡の反復から国家を信用しないDNA体質
 - ・易姓革命と「一握の砂(孫文)」の個人主義、家・宗族中心
 - ・皇帝・士大夫・老百姓から共産党・老百姓の社会へ・・・御上を不信用・自力本願体質・お金重視
 - ・「紅包」の伝統と習慣
- ②共産党独裁統治に関わる問題
 - ・「共産党領導の国家(憲法前文)」・・・中国政治では三権分業で相互抑止は効かず司法の弱体
 - ・配分システムや税制(累進課税・相続税なしなど)に不備
 - ・・・既得権益層の膨張
 - ・「狭くて重い」汚職罪(刑法で5000元以上が汚職=約8万円、実態は10倍以上)死刑もある
 - ・摘発手順：党員にはまず規律検査委員会による恣意的な決定で取り調べ、その後司法の手に

3. 習近平政権の「蠅も虎も退治」の取り組み

- ①18期党大会後の悲痛な決意・・・「蠅も虎も同時に撃つ」・・・中央規律検査委員会主席に王岐山
- ②摘発事例・・・薄熙来政治局員：無期懲役、周永康政治局常務委員：検察庁送り

地方公務員を含め2013年度検挙37550人、県知事級2875人、局長級253人、大臣級8人、

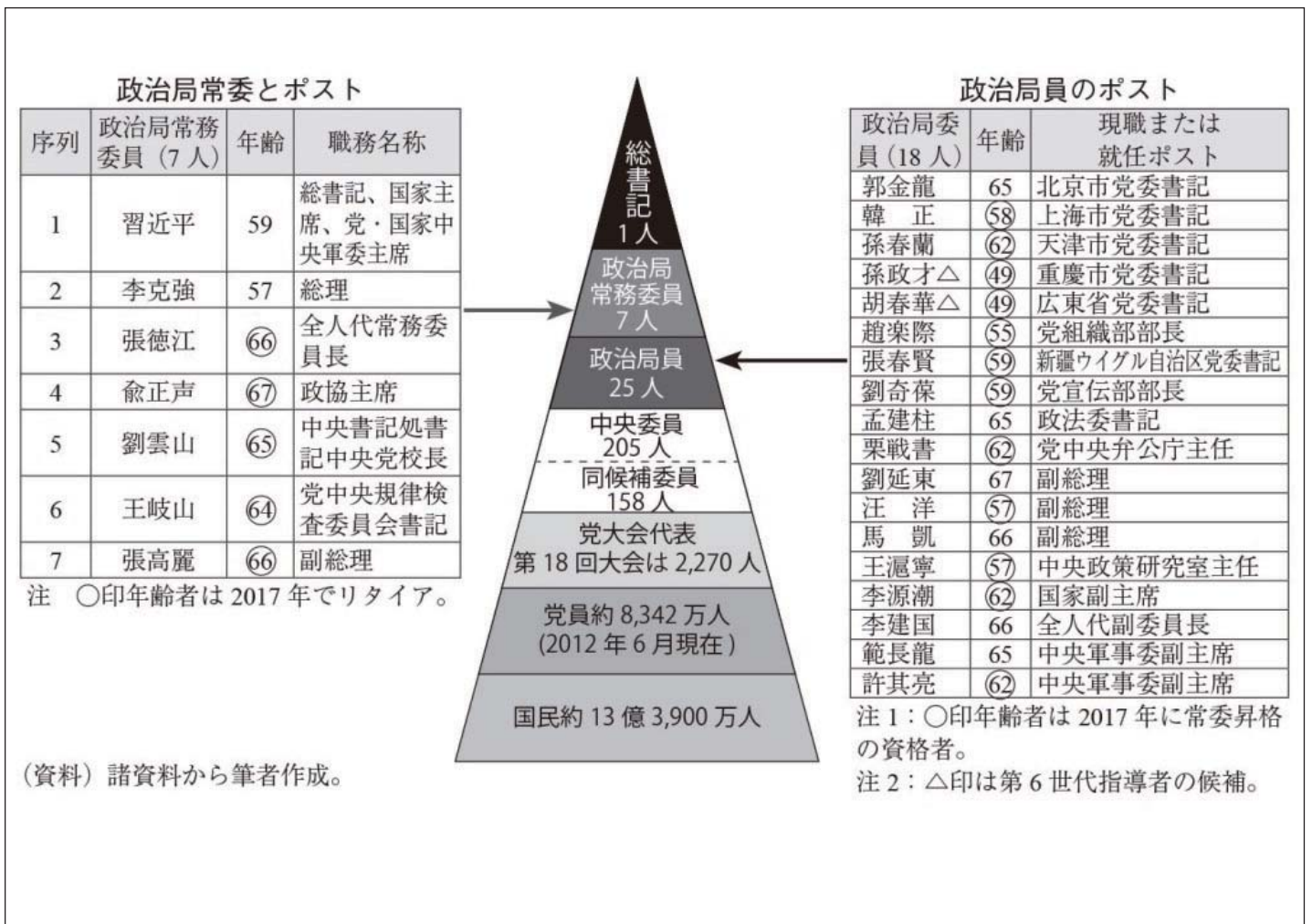
4. 軍人にまで及ぶ汚職腐敗の現状

- ①解放軍は「党の柱石」・・・党軍もたれ合い関係と反四风(官僚主義、形式主義、華美主義、贅沢)
- ②「軍は、戦闘隊、政治、海軍副司令：王業平中将など、軍2位の徐才厚大将など16人の將軍

5. 中国から汚職はなくなるか？

- ①中国社会の土壌と共産党が最大の既得権集団、さらに習政権が抱える難題への取り組み
- ②法治による統治の決定(4中全会)と6億人を超えるインターネット人口の動き

(図表-1)



ロータリーニュース

平和構築におけるロータリーの役割を信じて

「もしこの世界にロータリーがなかったら？」ナイジェリアの慈善家、マイケル・オラワレ・コールさんは、こう問います。

「世界的なポリオ撲滅活動がなければ、今ごろ世界中の何百万という子どもが手足のまひに苦しみ、大勢が命を落としていたでしょう。ロータリーがあったからこそ、ポリオ撲滅活動がここまで広がったのです」

オラワレ・コールさんは、1980年代にラゴス州のイソロ・ロータリークラブに入会。

「保健、インフラ、倫理、平和など、世界には問題が山ほどあります。ロータリーはこうした多くの問題の一つずつ取り組んでいます」世界の最大の課題は平和と紛争解決であると考えているオラワレ・コールさんは、中東の紛争、ウクライナとロシアの緊張状態、母国ナイジェリア北部における過激派ボコハラムの脅威などを例に挙げ、今こそロータリーが平和に投資すべきだと言います。

2013年10月、オラワレ・コールさんは妻アデボラさんとともにアーチ・克蘭フ・ソサエティ*に入会。さらにロータリー平和センターのための「チーフ・マイケル・オラワレ・コール基金」を設立し、平和フェロウシッププログラムを通じたロータリーの平和構築活動を支援しています。

「人びとがまず必要とするのは安全です。身の安全が脅かされていたら、教育、きれいな水、保健の改善を推進するのは困難です。ロータリーの取り組みの第一の焦点は、平和であってほしいと私は望んでいます」

保険、観光、経営コンサルティング、石油製造にかかわる事業を営むオラワレ・コールさんは、「今の自分があるのはロータリーのおかげ」と言い、財団への支援は自らの義務だと考えています。「ロータリー財団に寄付すれば、一銭たりとも無駄にされずに責任をもって慎重に活用してもらえます。ロータリーだからこそ安心して寄付できるんです」

地区ガバナーを務めた2005-06年度には、ラゴスに「ロータリーセンター」を設立したほか、市民に水を提供するために80の井戸の設置を支援しました。

「ロータリーと出会えて幸せです」と語るオラワレ・コールさん。

「ロータリーの取り組みに心から共感しています。自分が寄付するだけでなく、ほかのロータリアンにも支援を呼びかけていくつもりです。ロータリーは今後もっと世界に貢献していけると信じています」

*アーチ・克蘭フ・ソサエティ＝財団に25万ドル以上を寄付した人を認証するプログラム。

ポリオワクチン開発から60周年

4月12日は、ジョナス・ソーク博士が1955年にポリオワクチンを開発してから60周年という記念すべき日でした。安全で効果的であ

るとして今日に至るまで利用されているこのワクチンが大きな後押しとなり、この60年の間に世界におけるポリオ発生数は99%減少しています。現在、常在国は3カ国（アフガニスタン、ナイジェリア、パキスタン）を残すのみとなり、ポリオという恐ろしい病が世界からなくなる日まで、本当に「あと少し」のところまで来ています。

ソーク博士による不活化ワクチン（IPV）は、世界的なポリオ撲滅活動の進展に欠かせないものですが、このワクチンが広く利用される以前は、米国だけでも年間35,000人がポリオに感染していました。ワクチン導入から2年後の1957年には発生数が90%減少、1979年には米国でのポリオ撲滅が達成されました。

しかし、世界規模でこのワクチンの効果が表れるまでには時間がかかりました。世界規模でのポリオ撲滅への取り組みとして、ロータリーが世界保健機関（WHO）、ユニセフ、米国疾病対策センター（CDC）とともに「世界ポリオ撲滅推進活動（GPEI）」を開始した1988年、実に125カ国でポリオが子どもたちの健康を脅かしていたのです。

それから四半世紀を経た現在、常在国は3カ国となり、ナイジェリアでは現在、ポリオの無発生が8カ月継続しており、アフリカ大陸でのポリオ撲滅が目前に迫っています。

GPEIでは現在、ポリオ撲滅最終戦略計画が進められており、今年中に120カ国で不活化ワクチンが導入される予定です。この戦略計画は、GPEIだけでなく、Gavi（ワクチンと予防接種のための世界同盟）と世界最大のポリオワクチン製造元であるサノフィパスツール社が中心となって実施するものです。

同社のオリビエ・シャーマイユCEOは次のように話します。

「120カ国以上の国々が不活化ワクチンを導入することによって、ポリオ撲滅の最終章が始まると言えるでしょう。弊社では、経口ポリオワクチン（OPV）から始まったポリオ撲滅活動において、不活化ワクチンが重要な役割を果たすことを、長年の間認識してきました」



子どもにワクチンを投与するジョナス・ソーク博士

ロータリーニュース

次回《6月5日》の卓話予定

テーマ 「神奈川の水物語 水と環境を思いやる暮らし」

冒険写真家 豊田 直之 様

（紹介者 天野 公史 会員）